

西側にとどまった。ヨシュアはその夜、兵とともに夜を過ごした。

8:1 【主】はヨシュアに言われた。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民をすべて率い、立ってアイに攻め上れ。見よ、わたしはアイの王と、その民、その町、その地をあなたの手に与えた。

8:2 あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。その分捕り物と家畜だけは、あなたがたの戦利品としてよい。あなたは町の裏手に伏兵を置け。」

8:3 そこでヨシュアは戦う民すべてとともに、アイに上って行くために立ち上がった。ヨシュアは三万人の勇士を選んで夜のうちに派遣し、

8:4 彼らに命じた。「見よ、あなたがたは町の裏手から町に向かう伏兵だ。町からあまり遠く離れないで、みな身構えていなさい。

8:5 私と、私とともにいる兵はみな町に近づく。アイの人々がこの前と同じように、私たちに立ち向かって出て来たら、私たちは彼らの前から逃げることにする。

8:6 彼らは私たちを追って出て来るので、私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは『この前と同じように、われわれの前を逃げて行く』と言うだろうから。私たちは彼らの前で逃げることにする。

8:7 あなたがたは伏せているところから立ち上がり、町を占領せよ。あなたがたの神、【主】がその町をあなたがたの手に渡される。

8:8 その町を攻め取ったら、その町に火を放て。【主】のことばどおりに行うのだ。見よ、私はあなたがたに命じる。」

8:9 ヨシュアは彼らを派遣し、彼らは待ち伏せの場所へ行き、ベテルとアイの間、アイの

神に創造された私たち人間にとって、永遠とは神と共に過ごすか断絶されて過ごすかの、どちらかしかありません。神との断絶こそが人間にとって最大の苦しみであり絶望です。

そしてそのどちらかは、人間自身の選択にかかっています。主との永遠の祝福すなわち天国をえらぶか、断絶である地獄を選ぶかです。神である主はそのことを人類に知らせる必要があるとお考えになって、聖書を記してくださいました。

このアイの戦いと聖絶はまさに、永遠か滅びかを明確に表しているものと言えるでしょう。アイの人々は、忌まわしい偶像に仕えてまことの神に敵対していました。まさに滅びに向かっていたのです。もしもそれをいい加減にして残しておいたなら、イスラエルも影響されて神に敵対するようになってしまうのです。それはその後の歴史からも明らかです。

人の命はもちろん大切に、主の律法にも「殺してはいけない」とあります。しかし、主は肉体の命よりも永遠の命の重要性を知らしめるために、このような聖絶をお命じになったと思われまます。

またそれは主に敵対する者のさばきの現実をも表します。私たちはみなかつては主に敵対するもので、自分勝手な歩みをしていました。アイの民のように滅ぼされるべきものであったのです。しかし、主はイエス様にその罰を負わせて、身代わりとして私たちを無罪としてくださいました。滅ぶべきアイの民から、神の民イスラエルにしてくださいましたのです。感謝し、そしていつまでも神の民として生き続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

